

と畜場に出荷された福岡県産豚のE型肝炎ウイルス浸潤状況

横山敦史[†] 山崎知絵 清島綾子 山口佳苗子
前田宏昭 多田俊助

福岡県食肉衛生検査所 (〒818-0072 筑紫野市二日市中央4-5-34)

(2009年2月5日受付・2009年6月11日受理)

要 約

と畜場に搬入された福岡県産の通常肥育豚120頭(13農場)についてE型肝炎ウイルス(HEV)に対する抗体およびHEV遺伝子保有状況を調査した。その結果、IgG抗体は12農場73頭(60.8%)、IgM抗体は2農場2頭(1.6%)で陽性を示した。HEV遺伝子は3農場5頭(4.1%)で検出された。肥育豚は通常、育成期にHEVに感染し、出荷時にはすでに感染耐過し、遺伝子は検出されない。しかし、今回IgG抗体陰性豚から遺伝子が検出されたことより、と畜場に搬入された肥育豚の中に出荷直前にHEVに感染した事例の存在が示された。

——キーワード：肥育豚，E型肝炎ウイルス。

----- 日獣会誌 62, 895～897 (2009)

[†] 連絡責任者：横山敦史(福岡県食肉衛生検査所)

〒818-0072 筑紫野市二日市中央4-5-34

☎092-923-6621 FAX 092-923-6648

E-mail : yokoyama-a2740@pref.fukuoka.lg.jp